

## 【算数】

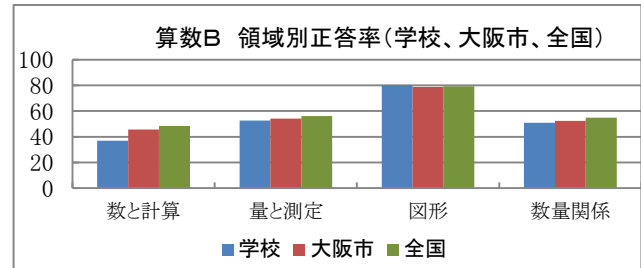
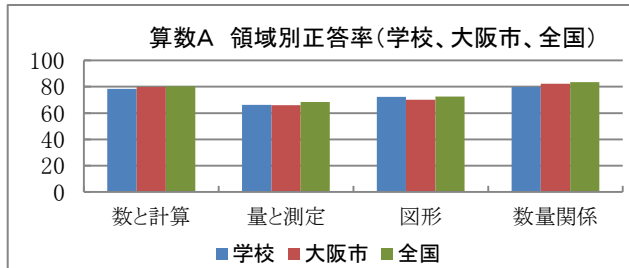
### 結果の概要

○「図形」領域で、全国・大阪市平均とほぼ同じ平均正答率となっている。しかし「数と計算」領域では、特にB問題で全国・大阪市から10ポイント前後下回る結果となった。B問題の「数と計算」領域は、すべて記述式の解答であることから、「書く力」の不十分さが影響しているものと考えられる。

○算数に関する「児童質問紙」を見ると、いずれも「当てはまる」という回答が低くなっている。しかし、「どちらかといえば、当てはまる」の回答の割合が比較的高くなっていることから、自信のなさが伺える。

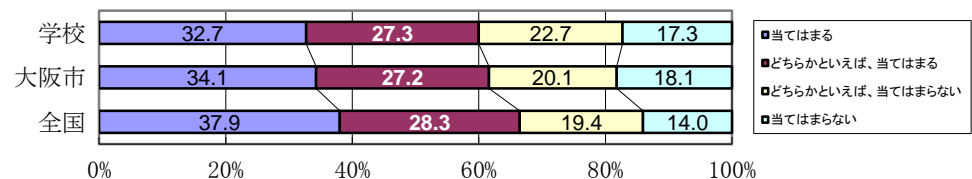
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	78.3	79.8	80.2
	量と測定	4	66.1	66.0	68.3
	図形	3	72.4	70.2	72.5
	数量関係	4	79.8	82.2	83.4

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	3	37.0	45.7	48.3
	量と測定	7	52.7	54.1	56.0
	図形	3	80.3	78.8	79.3
	数量関係	7	50.9	52.4	54.9



## 算数に関する「児童質問紙」

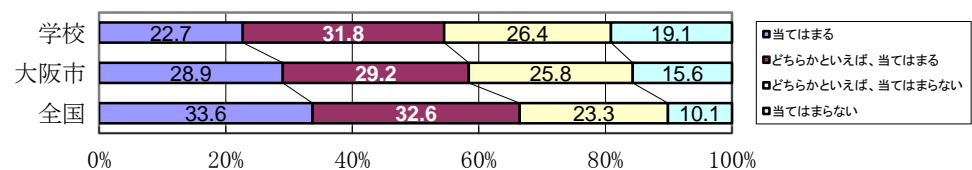
I 73 II 62 III 72
算数の勉強は好きですか



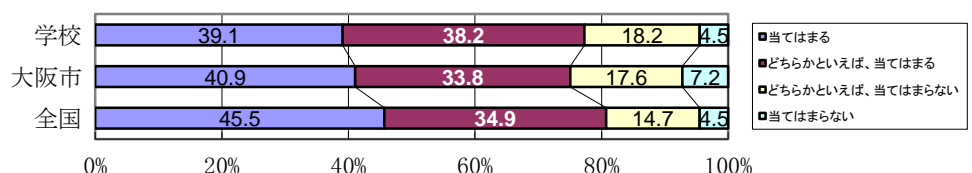
I 75 II 64 III 74
算数の授業の内容はよく分かりますか



I 78 II 67 III 77
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 80
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



## 成果と課題

朝のチャレンジタイム等での計算練習の積み重ねにより、小数のたし算、小数のかけ算、( )を用いた整数の計算など、すべての平均正答率が8割を上回った。しかし、「概数」「台形の面積の求め方」「割合」等で理解が不十分である。これは、問題の内容を十分に理解できていないことと、書くことへの抵抗感が強いと考えられる。「問題文を読み取る力」「書く力」の育成が課題である。

## 今後の取組

- 計算練習の積み重ねを今後も継続していく。
- 算数を2年目の校内研究教科とし、授業研究をさらに推進していく。
- 習熟度別担当と担任との連携を密にしながら、子どもたちの習熟度に合わせた指導を工夫していく。
- 家庭と連携しながら、予習・復習の習慣化を図っていく。